

13

豊橋

豊橋市立東部中学校

イシカワ リナ

名前 石川 里奈

○石川 里奈（東部中） 亀崎 太（本郷中） 岡本 雄太（石巻中） 坂田 英理（東陽中）
 福岡 寛也（北部中） 生田 順一（高豊中） 夏目 真希（石巻中） 大島 勇（青陵中）
 成田 拓野（高師台中） 森下 茉弥（東陽中） 中尾 愛華（豊城中） 松井 智香（豊岡中）
 渡邊 瑞生（豊岡中） 松田 あこ（南陽中） 稲垣 匡紀（羽田中） 鈴木 達也（高豊中）
 渡邊まみ子（吉田方中） 齋藤 綾夏（吉田方中） 山本 貞代（中部中） 山下 美華（東部中）
 樽谷 愛美（東部中） 筒井 優貴（南部中） 石黒 実咲（南部中） 岡本真梨花（二川中）
 深井 傑（二川中） 鈴木 愛梨（本郷中） 宮原 実優（牟呂中） 衛藤 風花（牟呂中）

分科会番号

1

分科会名

国語教育(文学その他)

研究題目

「こだわりの視点」や「こだわりの質を高める取り組み」を軸に、
 一語一語にこだわりをもって物語世界を読み深める生徒の育成
 ～中学2年国語科「一語一語へのこだわりから見えてくる魅力を伝え合おう
 一走りメロス」の実践を通して～

1 主題設定の理由

本学級の生徒は、読書を好む生徒が多く、物語の構成や設定を捉えながら意欲的に読み進めることができている。「アイスプラネット」の学習では、自分なりの考えをもちながら学習に取り組む姿や、登場人物のセリフや修飾語などの叙述に着目して心情や人柄を読み取ろうとする姿が見られた。また、一語一語にこだわりをもった他の生徒の考えを聞くと、素直に相手の考えを受け入れつつ、自分でも見つけてみたいという意欲を垣間見せる生徒もいた。登場人物の心情に寄り添おうとする思いをより高めるために、物語文を読むときには一語一語にこだわりをもって登場人物の心情を読み味わい、物語世界の広がりを実感できる力を身につけることを期待する。

以上のことを踏まえて、本単元で目指す生徒像を次のように設定した。

【目指す生徒像】

一語一語にこだわりをもって物語世界を読み深め、作品の魅力に気づくことができる生徒

※「一語一語にこだわりをもつ」とは、人物の言動や情景描写一つ一つに着目する姿を表している。

2 実践の構想

(1)研究の仮説

- ①「こだわりの視点」を与えることで、作品の魅力に迫るべく一語一語にこだわりをもって読み深めることができるだろう。
- ②「こだわりの質を高める取り組み」を行うことで、一語一語によりこだわった読解をすることができるだろう。

(2)研究の手だて

手だて①「こだわりの視点」を与える

作品の推せるポイントを語り合う場を設定した際に「主題」、「登場人物のキャラクター」、「情景や人物の描写」、「構成・展開」の四つに分類し、「こだわりの視点」として整理する。生徒に適宜提示することで、視点を意識しながら物語を読む深めることができるだろうと考えた。

手だて②「こだわりの質を高める取り組み」を行う

ア：一人読みの際に語句の意味を自由に調べられるように一人一冊辞書を与えることで、語句の意味から行動や情景描写をより正確に読み取ることができるようになり、人物像や心情変化に迫ることができるだろうと考えた。

イ：一人読みと全体交流の時間を交互に設定することで、仲間の考えを取り入れながら一人では気づけない細かな設定や表現に着目したり、同じような表現を比較して場面をつなげて読みだりすることができるだろうと考えた。

ウ：板書の際には、読み取りの核となる言葉やイラストを黒板の中心に据えることで、思考が視覚的に整理することができるようになり、登場人物の性格や心情変化により着目しやすくなるだろうと考えた。

(3)抽出生徒について

次に示す生徒Aを抽出生徒とし、授業での様子や振り返りの記述から変容を追うことで、手だての有効性を検証していく。

【生徒Aの実態】

学習意欲があり、グループ活動や全体交流時でも積極的に意見を述べたり仲間の意見に反応したりする。人物の言動や情景描写に注目することが少ないことがアンケートや言動からみられた。

【生徒Aにける教師の願い】

「こだわりの視点」や「こだわりの質を高める取り組み」を軸に登場人物の細かな心情の読み取りができるようになることで、一語一語へのこだわりをもってじっくりと読み深めてほしい。

3 研究の計画（12 時間完了）



4 研究の実践と考察

(1)第1～4時:「こだわりの視点」から作品を読む生徒A(手だて①、②ーア・イ)

第1時では、推しの作品について語る場を設定した(手だて①)。生徒Aは、選んだ作品の主題に注目して「命の尊さが伝わる場所が推せるポイントだよ」と発言した。他生徒は「登場人物の見た目や話し方が好き」、「ギャグが多い中にシリアスな場面がある展開に引き込まれるよ」と発言した。生徒Aは、他生徒の意見を聞きながら「それぞれ目をつけるポイントが違うんだな」とつぶやいた。そして「現代と重ね合わせられるところが魅力の一つだと思う」という生徒Aの発言を皮切りに、全体交流で出た推せるポイントを「魅力」として板書に整理し「主題」、「登場人物のキャラクター」、「情景や人物の描写」、「構成・展開」に分類し、「こだわりの視点」として生徒に示した。

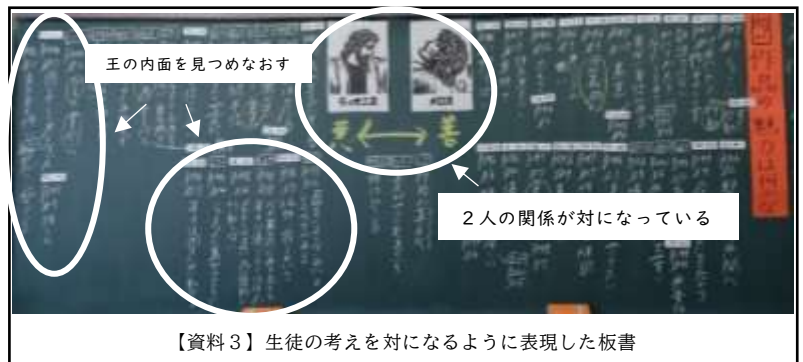
第2時には本文を通読したのちに「こだわりの視点」をもとに初読の感想を書く場を設定した(手だて①)。生徒Aは「主題は愛と誠の力だと思います」とまとめていた【資料1】ことから「こだわりの視点」に沿って読み、一語へのこだわりをもち始めていることがわかる。

第3時には、初読の感想を交流する場を設定した(手だて②ーイ)。辞書を渡した(手だて②ーア)ことにより「『茫然と立ちすくむ』とは、ぼんやりして動けなくなる様子という意味だから…」と、語句の意味に注目して発言した生徒がいたことから、語句の意味にこだわりをもち自分の考えを支える根拠としたことがわかる。生徒Aは振り返りに「信じて裏切られてもそれでも友をずっと信じていた所に感動しました」とまとめた【資料2】ことから、意見交流したことで考えを深められたことがわかる。

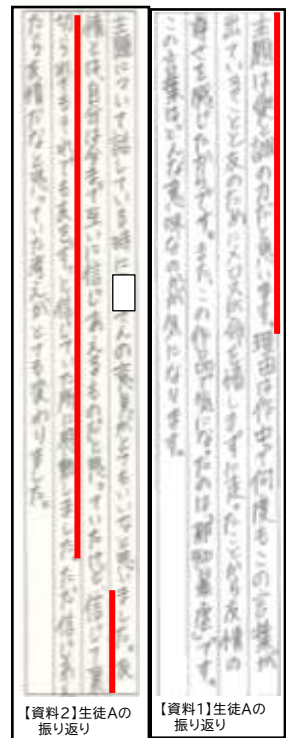
第4時では問いを決めた。「できごとごとに話し合っ、作品の魅力を探りたい」と生徒Aが発言したことから、「走れメロス」の魅力を迫りたいという思いを高めたことがわかる。そして、単元を貫く問いとして「作品の魅力は何か」という問いを設定し、追究を始めた。

(2)第5時:メロスやディオニスの人物像を把握する生徒A(手だて②ーア・イ・ウ)

第5時では、前時に生まれた問いを解き明かすためにどうしたらよいかを生徒に投げかけたところ、「登場人物の人物像を捉えたい」、「主題について考えたい」などの意見が飛び交ったことから、「こだわりの視点」への意識が高まっていることがわかる。「まずはメロスとディオニスの人物像を捉えたい」と生徒Aが発言したことをきっかけに、二人の人物像を追



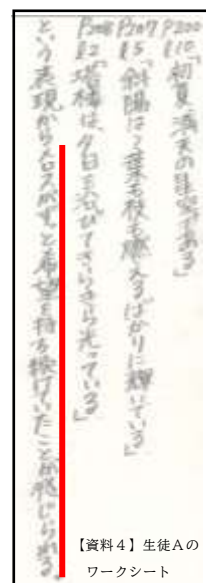
った。一人読みをする時間を設けると(手だて②ーア)、生徒Aのワークシートには「のそのそ」という表現から「メロスはマイペースな性格だ」と読み取ったり、セリフの語尾に注目して「敬語だと妹のためにという気持ちをより感じる」と読み取ったりしたことがまとめられていた。これらのことから、一語へのこだわりをもち、人物像や心情に迫ることができたと考える。メロスにはプラスのイメージを、ディオニスにはマイナスのイメージをもった生徒が多かったため、生徒の考えが対になるように板書をした(手だて②ーウ)ところ、生徒Aは板書【資料3】を見て、「対になるような人物像として描かれているんだな」とつぶやいた。このことから、黒板の中心部が二人の人物像を捉えるヒントになったことがわかる。交流が進むと他生徒から「メロスが老爺を揺すぶったりセリヌンティウスを勝手に人質にしたりしている様子から、意外と自分勝手な人だと思った」、「『顔が蒼白で眉間のしわは刻み込まれたように深い』とあるから、ディオニスなりに悩んでいたのかもしれない」という発言があった。生徒Aは「人物像は一つ一つの言動からもわかるんだな」とつぶやいた。このことから、一語一語へこだわった仲間の意見を聞いたことで、人物像を意識しながら読み深めることができ、自分の考えを見つめ直すきっかけになったことがわかる。



(3)第6～9時:登場人物メロスの心情を追う生徒A(手だて①、②ーア・イ)

第6時では、前時の振り返りに他生徒から「できごとごとにじっくり読みたい」との記述があったため印象に残るできごとを出し合った。「川の氾濫」、「山賊の出現」、「心身の疲労」、「清水を飲む」、「フィロストラトスとの出会い」、「セリヌンティウスとの再会」、「王とのやりとり」の七つのできごとにおけるメロスの心情を追っていくこととした。

第7時では、「こだわりの視点」や本文を根拠にメロスの心情を読み取る一人読みの場を設定した(手だて①、②ーア・イ)。生徒Aが『初夏～』、『斜陽は～』、『塔楼は～』という表現からメロスがずっと希望をもち続けたことが感じられる」とまとめた【資料4】ことから、情景や行動描写に目を向けるようになったことがわかる。また、生徒Aの振り返りに「みんながどんな心情を読み取ったかを知りたい」と書かれていたので、第8・9時でメロスの心情を全体で交流する場を設定した(手だて②ーイ)。「川の氾濫」時には、生徒Aが『百匹の大蛇のように』から、メロスの並々ならぬ思いが伝わってくる」と発言したことから、比喻表現に注目し、メロスの心情について読み深めることができたと考える。生徒Aの発言に加えて、他生徒は「覚悟した」や「愛と誠の力」という表現に注目し「メロスが大切にしているものとして愛や誠、正義が挙げられそう」と発言した。「心身の疲労」時には、生徒Aは『芋虫ほどには前進叶わぬ』という表現から、全てがめんどくさくなかったのではないかと発言した。教師が「全てとは何か」と問い返すと、生徒Aは他生徒と話し合いながらメロスが大切にしている信念のようなものだと、「愛や誠、正義とかのこと」と発言した。そこで、メロス自身が大事にしてきた信念を視覚的に整理できるよう、イラストを提示した(手だて②ーウ)【資料5】。生徒A



【資料4】生徒Aのワークシート



【資料5】七つの信念を表したメロスのイラスト

が「友情や信頼も入るんじゃないかな。メロスとセリヌンティウスが『ひしと抱き合う』場面からは友情や信頼という言葉が浮かんだよ」と発言したことから、行動描写に注目して本文を読み直したことでメロスの信念を読み取ることができたと考える。続けて「人を殺して自分が生きる」、「正義だの、信実だの、愛だの、考えてみればくだらない」などに注目して、生徒Aは「人間不信になって、残虐な言動を繰り返すディオニスと重なる部分がある」とつぶやいた。このことから、仲間の考えを聞いて場面をつなげて読むことで、一語へのこだわりの増し、人物像の読解を深められたことがわかる。最後の「王とのやりとり」時は、生徒Aは『顔を赤らめて』、『信実とは決して空虚な妄想ではなかった』という表現は、冒頭のディオニスからは考えられない。『空虚』とは物事の価値がないことという意味だから、妄想するに値しないものだとして捉えていたとわかる」と発言した。他生徒が「ディオニスは裏切られた経験があるという捉え方もできるから、最後に『信頼』を軸に大きく変化するのとは不思議じゃない」と発言した。すると、生徒Aは第5時のワークシートを読み返し、冒頭と最後の場面をつなげて読み、ディオニスの人物像を再考した。更に「今まで中心人物の変化を必ず捉えていたよね。メロスはどうかかな」とつぶやき、メロスの変化の有無に焦点をあてていった。物語の山場となる、メロスの復活とセリヌンティウスとの再会の場面の一人読み、そして冒頭と山場の比較をすることで、メロスの変化の有無について考える場を設定した(手だて②ーイ)。生徒Aは第5時で迫ったメロスの人物像とも照らし合わせながら「メロスは希望をもち続けているから変化していない」と考えたが、振り返りに「変化したと側側の意見をききたい」と綴ったことから、仲間の考えから自分の考えを深めたいという意欲を高めたとわかる。

(4)第10時:メロスは本当に変化したのかについて考える生徒A(手だて②ーイ・ウ)

第10時では「メロスは変化したのか」という問いに対する考えを全体交流する場を設定した(手だて②ーイ)。生徒Aは「メロスの見る情景はいつも光り輝いているシーンで、いつまでも希望をもち続けるメロスだった」と発言した。このことから、情景描写の一語一語へこだわったからこそ、心情と重ね合わせることができたと考える。「私は信頼されている」という言葉が2回繰り返されていることに注目した他生徒は、山場をきっかけにメロス自身の内面が強固なものに変化したと発言した。他生徒の意見を聞いて生徒Aは「セリヌンティウスとのやりとりを経て人の心を変えられるほど

強く正義感のあるメロスにグレードアップされた」とワークシートにまとめた。さらに、他生徒が「第2場面での『ひしと抱き締めた』はセリヌンティウスが一方的に抱き締めているが、第5場面の『ひしと抱き合い』は抱き合ったあとに泣いていて二人の心がぐっと近くなり、友情が深まったと感じた」と発言したことから、場面をつなげて読むことでメロスの心情の違いを明らかにしたことがわかる。その後、フィロストラトスとの出会いに注目した他生徒が『いや、まだ日は沈まぬ』と2回繰り返して、メロスの絶対諦めないという決心が表れている」と述べ、フィロストラトスとのやりとりが変化のきっかけであるという新しい考えを提示した。さらに、フィロストラトスの言葉に注目した他生徒を教師が意図的に指名すると「フィロストラトスに『やめてください』と言われるほど助けたいという思いが強まったのではないか。『間に合う間に合わぬは問題ではない。人の命も問題ではない』とあるから、メロス自身の名誉や誠よりももっと大事なものに気づいた瞬間ではないか」と述べた。すると、生徒Aが「なんでメロスは走るのを辞めなかったんだろう」とつぶやいた。そこで教師は、メロスのイラストを黒板中心部に提示した（手だて②ーウ）。すると、生徒Aが「信頼されている無二の友人だからこそ、信頼そのもののために走ったのではないか」と発言したことからメロスのイラストを頼りに「信頼」に焦点をあて、「それだから」という一語にこだわって考えを深めたことがわかる。生徒Aの考えについて、メロスのイラストを使って説明を促した（手だて②ーウ）ところ、他生徒が「信頼」以外を取り「最後に残ったのは信頼のみだ」と説明した【資料6】。「名誉とかを捨てることになる」と、見つけていった意味がなくなる」という発言に対して生徒Aは「信頼さえあればいいと強く思っているから、自分本位な信念は捨てたんじゃないかな」と発言した。生徒Aが振り返りに「メロスは最後、セリヌンティウスからの信頼に応えるためだけに走っている。メロスの口調や表現の工夫に着目すると、メロスがどんどん変化していると感じた」とまとめたことから、仲間の考えを聞いてメロスの変化のきっかけがフィロストラトスとの出会いであり、「それだから走る」という表現にこだわりをもつことができたと考えた。



【資料6】イラストを使って説明する生徒

(5)第11・12時：「走れメロス」の魅力を見つけた生徒A（手だて①、②ーイ）

第11時では、作品の魅力をまとめられるよう一人読みの場を設定した（手だて②ーイ）。一語へのこだわりが高められるように、第1時で生まれた「こだわりの視点」を再度提示した（手だて①）。すると生徒Aは主題を「友情」と捉え、修飾語や句読点の数にまでも注目して多くの魅力をコラボノートへまとめる姿がみられた。このことから「こだわりの視点」をもとに一つ一つの描写について考えたり語句の正確な意味を調べたりしながら作品の魅力について読み深めることができたと考えた。

第12時にはコラボノートへまとめたものをもとに、全体で発表する場を設定した（手だて②ーイ）。生徒Aは「セリヌンティウスとメロスの友情は変化していないように感じるが、『抱き締めた』と『抱き締め合う』という表現を比べることで違いを見つけ出せる。私は、5場面で『うれし泣き』の描写がありメロスが初めて泣いたことから、試練を乗り越えた先に本当の友情を見つけられたのではないかと考えた。また、色に注目して『黒い風の〜』という表現からメロスの一生懸命さが伝わる」と述べた。このことから、仲間との交流で得た「場面をつなげて比較して読み、意味合いの違いからわかる友情の深化」と「色彩表現から見えるメロスの心情」という新しい切り口で発表することができた。仲間の考えを踏まえながら一人読みを行ったことで、自分の考えを更に深めたことがわかる。一人一人がこだわるポイントをもち、仲間との交流を踏まえて魅力についての考えをより一層深めることができたとわかる。

5 実践の成果

(1)手だて①「こだわりの視点を与える」について

第1時の振り返りに生徒Aは「作品を読む時に、主題や登場人物の生き様、言葉の選び方など細かい描写まで目を向けて魅力を探してみようことを意識すると、気持ちの変化がもっとわかると思った。『走れメロス』には、たくさんの魅力があると思うので見つけたい」とまとめた。読解を進めていく際に「こだわりの視点」を適宜提示することで、視点を意識しながら読み深めた。生徒A

は第9時の振り返りに「視点に沿って読んでいるとおのずとメロスの心情変化をより深くまで読み取ることができた」とまとめた。作品を読む際の視点を示すことで一語一語にこだわりをもってじっくりと読み深めることができたことがわかる。第1時で「こだわりの視点」を得たことによって、単元を一貫して「こだわりの視点」から読み深めることができたと言える。

(2)手だて②ーア「一人読みにおける辞書の活用」について

第5～8時の一人読みの質を支えるだけでなく、交流時には語句の正確な意味を頼りにメロスの心情を述べていたことがわかる。生徒Aが「茫然と」「空虚」など語句の意味を調べたことから、一語へこだわる姿勢が養われたとともに、より正確に心情に迫ることができたと言える。一人読みや仲間と意見を交流する場面で辞書を自由に使えるようにしたことで、語句の正しい意味を捉えて、より正確に内容を理解できたり登場人物の心情に迫ることができたりしたと言える。

(3)手だて②ーイ「交互に行う一人読みと全体交流」について

第12時に、生徒Aが色にまつわる表現や場面をつなげて読むことに着目したことから、言動に着目するだけでなく一語一語へこだわることが作品の魅力と捉えていたことがわかる。一語一語へのこだわりがあるゆえに可能になった読解を根拠として自分の考えを述べる姿があったと考える。一人読みと全体交流の時間を交互に設けることで、一人読みの時には気づかなかった考えを得ることができ、新たな切り口から登場人物の人物像や心情を捉えることができたと言える。

(4)手だて②ーウ「黒板の中心を使った板書の工夫」について

板書において、授業の核となる言葉やイラストを黒板の中心に位置づけることで、生徒の思考を整理するだけではなく、一語へのこだわりにつながったと考える。特に第5時の人物像を整理する際には、メロスとディオニスが善と悪の対の関係であることを示唆し、その後のメロスの人物像を見直すための思考の揺さぶりに効果的だったと言える。

(5)単元全体を通して見た生徒Aの様子から

生徒Aについては、単元終了後に「色や情景に関する描写にこだわったことで、メロスの心情が初読時よりもかなり細かく捉えることができた。また、同じような描写に注目して、場面をつなげて読むことにも挑戦できた。(中略)一語一語へのこだわりをもって読み進めることで作品にじっくりと向き合うことができ、些細な表現一つとっても大事に読み取っていききたい」とまとめた【資料7】。このことから、言動や情景描写にこだわりをもって読み深めたことで、物語世界の広がり方の違いを実感したと言える。また生徒Aが「細かな描写にこだわるほど物語世界がぐんと広がった」とまとめたことから、一語一語へこだわりをもつことで、登場人物の心情がより深くまで読み取れることに価値を見出したことがわかる。

色や情景に関する描写にこだわったことで、メロスの心情が初読時よりもかなり細かく捉えることができた。また、同じような描写に注目して、場面をつなげて読むことにも挑戦できた。今までの読解はいかに表面上の読みでしかなかったのが身をもってわかった。一語一語へのこだわりをもって読み進めることで作品にじっくりと向き合うことができ、些細な表現一つとっても大事に読み取っていききたい。今、すごく達成感があるし、何より一時間一時間が楽しかった。

【資料7】生徒Aの単元後のアンケートの記述

6 今後の課題

本実践では「こだわりの視点」を与え、「こだわりの質を高める」ことを手だてとし、授業を展開した。生徒が一語一語にこだわりをもちながら物語世界を読み深めることができるよう、発言をつなぎながら学びを深める授業づくりをさらに意識したい。そして、生徒が自由に発言できる場を設定し、生徒の発言をつなぎながら授業を展開することで、多様な考えを共有することができた。一方で、生徒の発言を十分に生かしながら一語に着目して考えを深めていく働きかけや問い返しには改善の余地があった。教師が生徒の発言を意図的につなぎ、根拠となる言葉に立ち返らせることで、一語に込められた意味や表現の効果を多面的に捉え、物語世界を主体的に読み深める力を育むことにつなげていきたい。

また、板書については授業の核となる言葉やイラストを中心に構成することはできたものの、生徒が着目した一語へのこだわりやその一語に対する解釈の広がりが十分に伝わるものには至らなかった。今後は、板書する言葉をより精査するとともに色分けや配置を工夫し、生徒の思考の流れや発言同士のつながりがわかる板書を目ざしたい。授業に向けた小さな工夫を積み重ねることで、生徒が一語一語を根拠に自分の考えを形成し、仲間の考えと比較したり関連づけたりしながら物語世界をより深く読み味わう力を育んでいきたい。